

「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 「知事と語ろう。10年、20年後の長野県」

日時 平成29年5月14日（日） 10時から12時15分まで

場所 長野県庁 西庁舎111・112号会議室（長野市）

目次

1 開会	．．．．．	P 2
2 趣旨説明	．．．．．	P 2
3 知事あいさつ	．．．．．	P 5
4 グループごとの意見交換（省略）	．．．．．	P 6
5 グループ発表	．．．．．	P 6
6 知事とのディスカッション	．．．．．	P 12
7 知事総括コメント	．．．．．	P 29
8 閉会	．．．．．	P 29

【参加者】 29人

公募による概ね 30 代までの一般県民

長野県知事 阿部守一

進行役 倉根明德（信州イノベーションプロジェクト（SHIP）共同代表、県職員）

※各グループ（テーブル）の意見交換の内容は省略してあります。

1 開 会

【広報県民課長 小野沢弘夫】

皆さん、大変お待たせをいたしました。

ただいまから「県政タウンミーティング」を開催いたします。意見交換までの間、進行を務めます広報県民課の小野沢弘夫と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日の県政タウンミーティングでございますけれども、次期総合5か年計画の策定に向けまして、10年後、20年後の長野県の将来像やその実現に向けたアイデアなどについて皆様方と意見交換をさせていただきたいと思っております。限られた時間ではございますが、活発な意見交換をお願い申し上げたいと思います。

なお、本日の意見交換の内容でございますけれども、お名前などの個人情報を除きまして、後日、県のホームページで公開をさせていただきます。ご了承いただければと思います。また、本日は取材の関係で報道各社がおられます。大変恐縮ですが、参加者の皆様方の中で、取材の撮影について支障がある方いらっしゃいましたら、その場で結構ですので拳手をいただけますでしょうか、よろしいですか。ではご協力のほうをよろしくお願いを申し上げます。

また、本日は手話通訳をお願いしております。長野県におきましては昨年3月に手話言語条例を制定いたしました。障がいのある方もない方も互いに支え合いながら共に生きるために、誰もが手話に親しみ、手話に対する理解を深め、日常生活で手話が広く利用される長野県を目指しております。

それでは、これからおおむね2時間の予定で意見交換に入っておりますが、本日の進行役をご紹介申し上げます。信州イノベーションプロジェクト、通称SHIPの共同代表で県職員でもあります倉根明徳さんでございます。

信州イノベーションプロジェクトは「長野県をどこよりも楽しい場所にする」をスローガンに、長野県庁の若手職員10名が発起人となりまして2013年に立ち上げた団体でございます。それでは倉根さん、以降の進行をよろしくお願いいたします。

2 趣旨説明

【進行役 倉根明徳】

皆さん、おはようございます。

ここからはフリーに行きますのでよろしくお願いいたします。

もう皆さん、事前に少し早めに集まってもらって、少しテーブルで話していただいたので、少し和やかな雰囲気になったかなと思うので、ざっくばらんにお話いただければと思います。

今日の説明、スライドは見えますか、簡単に説明をします。細かい内容は、各テーブルに進行役がいますので、その進行に従ってやっていただきたいと思います。

まず今日の流れなんですけれども、前半は今のグループで意見交換をしてもらいます。大変申し訳ないんですけど、本当はグループづくりからみんなやっていただければ楽しかったんですけど、時間の関係もありますので、申し込んできたとき皆さんに書いてきていただいた内容によって、近いかないという人をグループでまとめてみました。

事前に教育グループですよとか言われたと思うんですけども、それにこだわらず自分の夢を語っていただいてグループで話していただければと思います。グループでは、自分がこんな長野県にしたいんだ、それに対して今どうなっているのかとか、それを解決するにはどうしたらいいんだということを、今日は高校生、大学生、社会人、いろいろな方がいるので、みんなで話し合っていてもらいたいと思います。

後半、これメインになりますけど、今日、知事も来られていますが、そのグループでまとめたものを知事に対して発表をして、知事から意見交換というか、もっとこれってどうなっているの、詳しく教えてとかという質問が来ると思うので、もうそこはグループが出したテーマでなくてもいいので、僕はそれそう思いますとかというのをどんどん言っていただく時間にしたいなと思っています。

今日のルールです。よくありますけど、とにかく人が出した意見に対して、それはもうやっているよとか、それはもう昔やってだめだったんだよというふうに言うてしまうとちょっと意見が出しづらくなってしまうので、「いいね、いいね」でいきましょう。後は、高校生なんかちょっと、多分この場の雰囲気とか、社会人の方とかがいるとちょっと緊張してしまうのかもしれないんですけど、もう遠慮しないで言ってもらいたいなど。

あともう一つ、これ一番大事なんですけど、現実路線にならないでくださいということですね。さっきちょっとテーブルでも声が聞こえていましたけれども、今の法律が悪ければ変えてしまえばいいんだし、20年もあれば多分いろいろなことが変えられると思います。今から20年前、私が高校生だった頃とかを考えてみれば、スマホなんてなかったですし、ポケベルって知っていますか。ポケベルでカタカナで通信していた時代からすれば、今のYouTubeだとかスマホなんて考えられなかったものがたった20年で今は当たり前になっているので、結構、20年というスパンって、いろいろなことが変えられるスパンだと思うんですよね。だから、今の現実路線じゃなくて、ぶっ飛んだことを少

し考えてもらえればいいと思います。皆さんの意見がぶっ飛んでいないと、行政に入ってきたときにもうこんなちっちゃくなっちゃいますからね。大きいので持ってきてもらわないと、最初が小さいともう消えてなくなってしまうので、お願いします。

今日は助っ人にも来ていただいています。後ろにピンクのシャツを着ている、船木さんなんですけれども、県の部長さんなんです。この春から博報堂から出向していただいて、いろいろなソーシャルマーケティングの専門家ですね。皆さん、「グループマイナス6%」とか聞いたことがあると思うんですけど、そういう言葉をつくってしまった方です。今日はグループディスカッションのところに入っていただいたりなんかして、ちょっと助っ人をしていただくので、一言。

【信州総合ブランディング担当 参与 船木成記】

お手伝いしにまいりましたのでよろしくお願いします。楽しくやりましょう。
よろしくお願いします。

【進行役 倉根明德】

よろしくお願いします。ではグループディスカッションに入っていきたいと思うんですが、45分で知事がうーんとうなるようなアイデアを出してほしいんです。もういきなりハードルを上げて申し訳ないんですけど。

まずは皆さん、多分今日はじめましてだと思いますので、簡単に自己紹介をしてもらった後、もう既にお書きになっている方もいるんですが、ワークシートがあると思うんですよね。自分の思いをそこに書いていただいて、それをグループでシェアしてください。本当はその1個1個の意見等を知事とやりとりさせていただければいいんですけども時間もないので、今日は申しわけないんですけど、グループでその中から似たものとかちょっとまとめてもらって、1個か2個に絞ってもらって、最後、知事に向かってグループとしてプレゼンテーションをしていただきたいなと思います。いいですか、けんかしないように。俺はこのテーマをやりたいんだというふうに意地を張らずに、このシート、このシートは本当、書いていただいたものは貴重な意見として総合計画にもしっかり反映しますので、自分の意見がグループでテーマにならなかったからといってくじけずに、よろしくお願いします。

ということで、グループワークに入る前に知事から一言いただいて、グループワークに入っていきたいと思います。よろしくお願いします。

3 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、おはようございます。手話で。皆さん、おはようございます。私は長野県知事の阿部守一と申します。よろしくお願いします。

今日は日曜の朝から大勢の皆さんに集ってもらいまして、ありがとうございます。さっき倉根さんが私の言いたいことをほとんど言っちゃったので、もう簡単にしますけれども。

今日のこのタウンミーティングは、私、あるいは県の職員が皆さんから知恵をもらう場です。皆さんには一生懸命汗をかいて知恵を出して、ぜひ私をはじめ、今日来ている県職員に皆さんのアイデア、皆さんの思いをインプットしてもらいたいというふうに思います。

今、長野県、新しい総合計画をつくっている段階ですけれども、まだ全然、海のものとも山のものともつかない状況で、何を政策の柱に据えていくのかということ自体、まだ私の頭の中でももやもやしている状況です。ぜひ若い世代の皆さんが、これから未来の長野県がこういう県であってほしいな、あるいは自分たちの暮らしがこうあってほしいなと、そういう思いをぜひストレートに出してもらいたいと思います。

倉根さんが言ってくれているように既成概念、今までこうだったからこれからもその延長だという世の中では、私は全然ないだろうと思っています。むしろ皆さんが、若い世代の皆さんがこういう社会にしたい、こういう県にしたいという思いが明確になれば、必ず社会はそっちの方向に動いていくと確信をしています。そういう意味でぜひ思い切り夢を語って、ぜひ私が困る、メディアの人たちも来ているので、いや、知事はああいう提案が来たけれども何かまともに受けてないんじゃないかというぐらい困るぐらいの高めの、ストライクゾーンがめっちゃめっちゃ外れ過ぎても困りますけれども、でも、私が空振り三振するぐらいの剛速球を投げてもらえるとうれしいというふうに思っています。

また後で皆さんと意見交換をさせていただきたいと思います。

もう一つだけお願いすると、評論家的な意見じゃなくて自分の切実な思い、自分の本音の夢。何か新聞にこんなことが書いてあったからこんなことをしたいなというのは絶対実現しません。自分が本当に困っていることで自分が本当にやりたいこと、ぜひそこを起点に発想してもらえるといいアイデアがいっぱい出るんじゃないかというふうに思います。どうぞよろしくお願いします。

4 グループごとの意見交換

【進行役 倉根明德】

では今から45分間なので、どのくらいかな、55分ぐらいまでグループワークをしていただきたいと思います。では、知事も私も船木さんもちょこちょこ回ったりしますので、よろしくお願いします。ではよろしくお願いします。

※各グループの意見交換の内容は省略

5 グループ発表

【進行役 倉根明德】

これから発表に移りたいと思いますので、まだグループで議論したいところもあるかと思いますが、ほかのグループの発表を聞きながら発表の準備を進めていただければと思います。

【信州総合ブランディング担当 参与 船木成記】

皆さん、お疲れさまでした。共有はすごくいい雰囲気で行っていたよね。これすごい楽しかったと思うし、いや、すばらしかったと思う。こんだけきれいにいく共有とかアイデアをみんなで持ち寄って、それを一個一個みんなで話して要素をこうやって並べて。この後、本当はこのアイデアづくりにもうちょっとシャープなほうに行ってほしい時間があるんだけど、今日ちょっと時間がないので尻切れトンボ感があるんだけど、ここまではすごくいい感じで出来てきているので、まずみんなに拍手しましょう、すばらしかったです。

ここからが本当のアイデアづくりで、本当はここから県職員とかも一緒に入って、作文が上手なやつが小さく丸め過ぎないようにやればいいんだけど、ちょっと今日はまだその途中ということで、知事にもここアイデアを逆に膨らませてもらう、人生経験長いからね。その辺を言ってもらおうということでいきたいというふうに思います。

【進行役 倉根明德】

ありがとうございました。ではAグループのほうから発表していただきたいと思います。ですが、今言ったように、アイデアはまだこう、まだ粒の状態なので、これをシャープな

ものに、知事から多分、鋭い質問が飛んでくると思いますが、お願いしますね。

【Aグループ】

Aグループです。よろしくお願いします。すごく楽しかったです。皆さんも多分そうだと思うんですけども。

Aグループの将来像なんですけれども、最初、何かみんなやっぱり長野県ということで自然を大切にしたいとか、世界とつながるとかいろいろ出てきたんですけど、やっぱり人口の話が出てきて人口、観光やって人が来るじゃないですか。人が来るんですけど、来てやっぱり帰っちゃうわけですよ。で、どうにかして定住化してほしい。その一つの軸みたいなものが教育になるんじゃないかという流れで話し合いました。

教育がよければ人が集まるよねという話なんですけど、でもやっぱり、何せ20年後の未来なんで、きっとハブ空港、わかりますか、ハブ、これ真ん中に教育というものが立っていて人は集まるんだと、長野県を拠点にするんだけど、いろいろなところにみんな旅立っていくんじゃないかと。故郷は2つ、3つあるみたいな世界が来るんじゃないか、でも、その真ん中に立っているのは長野県であってほしい。日本の真ん中ですからね。うまい具合にそういうビジョンが出てきて、みんなすごいねってなんたんなんですけど。

では何で今、これが現状そうっていないのかというと、やっぱりいろいろ足りないわけですよ。お金だったり、技術だったり、人だったり、考え方だったり、ノウハウだったり、環境が整っていないんですね。環境が整ってないといふとこまでみんなシェアしまして、では実現方法というところは、すみません、これまだ粒の状態なんですけど、一応前提条件としていろいろ、多分直したりとかよくしたり、ノウハウはあるんですけど、前提条件としてやっぱり自然は壊さないでほしい。自然をうまく利用してほしい。自然をうまく使って教育であったり、人をひきつける魅力といふか求心力の元になってほしいといふところまではきました。この後、みんなとどんどんシェアしてブラッシュアップして、知事から突っ込みをもらいながらいいアイデアまで紹介していけたらなと思います。以上、Aグループでした。ありがとうございました。

【進行役 倉根明德】

では一旦、その模造紙を後ろのほうに張っていただいて、次、Bグループいいですか。今ので2分30秒ぐらいですので、ちょうどいいぐらい。ではBグループ、お願いします。

【Bグループ】

Bグループです。よろしくお願いいたします。

Bグループでは理想の長野県として「多様な人材が活躍できる心豊かに暮らせる魅力ある県」ということが出てきました。その中で、多様な人材が活躍できるというところでデュアルワークもできる。仕事に没頭できる、没頭できる仕事をする事ができる。全ての世代が活躍できる。それから違いを認める社会と出てきています。なぜこれが出てきたか、それが現状の問題なんです、周りの目が気になってやりたいことができない、みんなと同じであることがいいことなんじゃないか、そういう価値観がどうもあるんじゃないかと。

そこで、例えばです。具体的にいうと、男性が、制度があっても育休を取れないとか、女性は男性の役割ができない、女性と男性の役割に対する固定観念があるんじゃないかとか、それから外国人の方で、インバウンドで働ける方がいるのに企業に雇う余裕がなかったり、外国人はどうということに対する価値観がなかったり、慣れていなかったり、そうすると、せっかく留学生が来ても職がなくて東京へ行ってしまふ。これ留学生だけでなく、長野県で学んだ大学生が外に出て行ってしまふ、学べる場が少ない、そういった問題が身近に感じられていると出ています。

で、実現方法なんです、すみません、私たち具体的にものすごくエッジの効いたものを出すというところまで行かなかったんですけども、ただ一つやっていきたいというか、目指したいところでは多様性を受け入れる、みんなの意識を変えるということを目指していくために、例えば今、育児休暇のクォータ制度とか、もう育児休暇は取らなければいけない、女性が取るものだ、ではなく、固定観念を捨てて男性も取らなければいけないとか、もうそういったものをやっていっちゃうとか、学校を超えたコミュニティ、今、SNSなどもありますので、つくりやすいと思います。どんどんそういうのをつくるように進めていく。

それから、多様性の受け入れというところで具体的なところだと、留学生の受け入れをもっと拡大して英語に触れさせる。海外の文化、広い視野を持たせるということ子どもころからやってしまう。修学旅行に、逆に近いところに行くんじゃなくて変わったところ、今まで考えたこともないような斬新なところに行かせてみてはどうかとか、あとは、企業に金銭的なサポートをしたりして外国人に日本語教育をする、これ受け入れる企業のサポートですね。バイリンガルの方を雇うとか、そういったことをしていけばいい。みんなの意識が変わって違いを認める社会で全ての世代とか、女性とか男性とか関係なく、いろいろな人材が活躍できる魅力ある県になるのではないかという話にな

りました。以上です。ありがとうございました。

【進行役 倉根明徳】

ありがとうございました。何かAグループでも出ていましたね。長野にいたいとか、長野で住みたいという人がどっか行ってしまうというのは何かAグループでも課題で挙がっていました。

では次にCグループ、お願いします。

【Cグループ】

Cグループです。産業、観光ということで話をしていたんですけども、最初に全体で現状だとか将来像の確認をしました。その中で、地域の人の中で関心を持っている人とそうでない人のギャップが大きかったりですとか、あと若い人がどんどん県外に出てしまっている。若い人が長野県に興味がないですとか、そういった現状があるのかなと思います。ただ一方で、移住したい県、1位になっていたりだとか、いろいろな観光地があったりだとか、そのあたり結構こう、県外の方にとっては関心が高い部分であると思うんですけども、一方で、中の人たちになかなか興味を持っていない地域になっているのかなというところが現況かなと思います。

その上で将来像なんですけれども、地域を語れる人がたくさん増えてほしいとか、若い人がいっぱいいる地域になってほしいなですとか、そういった、中の人をもっとこう地域に前のめりというか、のめり込んだ人が増えて行ってほしいといった声が多かったので、今回、その観光というものをツールにして、外の人がいろいろな中に入ってくる中で、自分の地域はこんなに魅力的な地域なんだとか、こんな部分が長野県の魅力的なところなんだとか、地域の人が自分の地域に関心を持ってもらうようにしていったらいいんじゃないかなと思いました。はい、ちょっとバトンタッチします。

今出た将来像を実現するために、私たちのグループで出たのは、地域の人たちが地域の大切にしている伝統であったり、そういうものをまず体験して知るというのが大切だと思います。それで体験して楽しかったとか、こういうことなんだと知っただけじゃなくて、県内の中でも外でも発信するということが大切だという意見が出ました。

あとは、ほかのグループでも出たように、グローバル化が進んでいるのでほかの方々にも外の方、海外の方にも知ってもらえるために多言語化、英語の教育を進めていくのも大切だというふうに出たんですけど、中の人、長野県内の人、長野県内のことを知ら

なければほかの県の人とかに伝えることができないし、長野県の中でも北と南と大きな、大きなでもないんですけど差があって、北信のほうには海外の方が多くいらっしゃるんですけど、南信のほうにはあまりいらっしゃらなくて英語などほかの言語が大切だという実感が出てこないの、まずは自分たちの地域のことを知ることが大切だと思います。

ちょっと具体的な部分というのはまだまだ出てこなかったんですけども、この後、時間を使って、知事からも意見をいただいたりしながら皆さんと話し合っていければいいかなと思いますということで、Cグループでした。ありがとうございます。

【進行役 倉根明德】

ありがとうございました。ではDグループに準備していただいて、そう、私も実は中学校でちょっと何か授業みたいなことをやったときがあって、長野県は移住ランキング1位なんですよと言ったら、中学生が「えー」って。こんなとこ何も無いのに何がいいのとみんな言っていたので、結構、根が深いというか、地域の人に自分の地域の良さを知ってもらって大事だなと思いました。

では今度、最後ですね、Dグループ、お願いします。

【Dグループ】

お疲れ様です。Dグループです。私たちのグループは、テーマが「オール信州脱長野市」ということでやってみました。ちょっと刺があるので、ちょっと後で補足しますけれども。ここで出てきたテーマとして、このグループ、皆さんも結構似ているかもしれないんですけど、移住者がいたりとか、あと高校でスノボがやりたいからといって大阪から入ってきたり、で、もともと長野出身だったりという、それぞれ違う目線から話しました。

現状としては、そうですね、それを掲げた理由として、まず自分たち、中にずっといると都会へすごくあこがれはあるよねという話とか、でも、実際外から来るとすごく魅力があるよねというのを、こう、その関わりによって気づくということが多いんですけども、それが今、長野県が長野市のほうに県庁が集中してそこに施策が行ってしまったりとか、ほかの地域をよく知る機会がないということで、それがまた誇りが生まれにくいきっかけになっているのではないかと、原因になっているんじゃないかという話をしていました。そこで目指したい将来像としては、みんなが当事者意識を持って、長野市がや

ればいいよねとかじゃなくて、私たちができることは何なんだろうというのを知るという意味でも、ほかの人との融合だったりとか交流を図っていく必要があるよねという話をしていました。

で、その実現方法としていろいろ出たんですけども、これだねというのが、高校、その下でもいいかもしれないんですけども、科目に長野県という授業を入れる。もう既にやられているような高校もあるというふうには聞いているんですけども、それをちゃんと全県でやって、それを受け身で授業を受けるだけじゃなくて、その中の人はず自分たちを知った上で、ほかの市とかほかの県の人とそのプロジェクトを一緒にやる。それも、事によって、まあその手段としてお祭りとかイベントとか、その場所が生まれるという話が出てきたんですけども、それが単純にただ箱からつくっていくじゃなくて、それを外の人たちとやることで良さに気づいて、自然と那些人たちによって、では、こういうお祭りをやろうとかこういう、例えば芸術祭の話が出ていたんですけども、各市町村で芸術祭をやってそれぞれの魅力をそこで束ねて、ちゃんと一人ひとりがその魅力を伝えられるような広報できる人になったりとか、あとは、その芸術というだけじゃなくて、どういうふうに働いている人がいるのかということも知る機会がなかなかないよねということで、芸術祭の仕事バージョンみたいなものもあってもいいよねとか、あとは、もっと身近なところで、日々お年寄りが集まったり子どもが集まったりとかというような場所もできていくといいよねという話が出ました。以上です。

【進行役 倉根明德】

ありがとうございました。いいですね、何か都会の高校生とこっちの高校生と一緒にプロジェクトをやって今度は向こうへ行くとか、何かそういう交換の何か一緒にプロジェクトをやると、違いがわかるかもしれないですね。

では4グループ、発表が終わりました。結構、共通する部分があったり、全然違うテーマがあったりしました。知事が話したくてしょうがない感じになっているかと思いますので、一旦、この4グループの発表を聞いた感想と、ここ気になったというところがあればその辺を聞かせていただければなと思います。まだ、どのグループもアイデアまで行っていないと思うんですが、またそこを深掘りしていければと思います。よろしくお願いします。

6 知事とのディスカッション

【長野県知事 阿部守一】

どうも皆さん、ありがとうございます。

さっき船木さんからコメントあったように、私もずっとテーブル横で聞かせてもらいましたけれども、非常にいい視点とか、おもしろいアイデアがいっぱい出てくるなと思って聞いてました。ちょっと今の発表だと、多分言い尽くせてない人たちがいっぱいいるなというふうに思うので、ちょっと時間を延ばすので。

ちょっと、私の言いたいことはこれだということをぜひ言いたい人、早いもの順に5人だけちょっと。手を挙げて、はい2人、あと3人……では、5人とその一人ね。では、ちょっと10分ぐらい。

【進行役 倉根明徳】

ではどうぞ。

【女性】

このような場をいただき、ありがとうございます。

ちょっと今まで話していたこととは違うことなんですけど、思わずどうしても言いたかったので、この場に立たせていただきました。

さっき、皆様の発表をこの距離で聞かせていただいたんですけど、知事が書類、何か持っていましたよね。メモですか、見えてしまったんですけど。5か年計画を考える上でのイメージのような。

【長野県知事 阿部守一】

これ、私のメモです。

【女性】

知事はもう結構細かいところまでくみ取っていらっしゃってわかっているんだなと。1個、すごく細かいことなんですけど、すごく持ち寄りたいたいと思っていたテーマが今日あってぜひ伺いたいなと思ったんですけど、それまで書かれていてすごくうれしかったですよね。

県で行われている施策だったりだとか、あるいはこういう場での内容というのをもち

と県民一人ひとりが知っているという状況をつくれたらすごくいいなと思っていて、一部の人々がすごく盛り上がり力を入れてこういう場にいるということはあっても、全員が全員それを知らない。こういう場があるということさえも、熱心にこういう場に足しげく通う人もいれば、全然本当に興味もなく、確かに長野に住んでいる長野県民ではあるけど、全然知らないということもあると思うので、知らないという人を知っているという状況にする何か工夫だったり、環境づくりというのが今後できたらいいなと思って。

全然関係ないんですけど、さっき県政出前講座のチラシを見て、長野県が行っている125の講座があると知って、すごく聞きたいことがいっぱいあるけど、20人の人を集めなければだめなのかと思って。今後20年間あれば、何かネットで生放送をするのが当たり前の時代になれば、県内のどこにいても、もしくは県外にいても長野の取組というのを知る機会ができるんじゃないかと思って。県の取組、県で今、すごく力を入れていることというのを県民一人ひとりに伝えられるようになれば、県全体としても、県民であるアイデンティティであったりだとか、県の誇りというのが持てるんじゃないかなと思って、思わず言いました。ありがとうございました。

【長野県知事 阿部守一】

ちょっと質問だけど、何か私のメモで、これはいいなと思ったのはある。

【女性】

専門的な話にはなるんですけど、発達障がい児の支援の部分の部分で、自分は実はちょっと昨日、松本のほうでシンポジウムに参加してきて、教育の中でもすごく細かい部分なんですけど、多様性を認めるという部分をしっかり書かれていたのがすごくうれしかったです。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。

【進行役 倉根明徳】

ありがとうございました。

次、手を挙げていた方。

【男性】

今日はありがとうございました。

ハブということで、どういうふうにハブをつくっていくかということなんですけど、新しい普通の学校を長野県が発信していくということで、教育カリキュラムだけじゃなくて学校システム、教職員の働き方、人材をどうやって育てていくかというところはすごく大事だと思っています。

これは民間と行政、民間だけでもできないですし、行政だけでもできないことだと思いますので、そこを一致団結してどう進めていくかというところでアイデアとしていろいろ出ているんですが、一つ、今日、私が感じたのは、こういう場に高校生が来てくれていることというのはすごくうれしくて、世代間のコミュニケーションギャップというのは非常に大きいと思っています。なので、私個人的に、今、活動としてやっていることなんですけど、私、今40歳ですけども、この高校生、大学生と20年世代間のギャップがあります。こういったところを補う長野県のメンター（相談者・助言者）制度というのをぜひつくっていただきたいなと思っています。

私が60歳のときに彼らが30後半から40歳になる。この日本を引っ張っていく人たちだと思うので、こういったメンター制度というのを長野県が全国に先駆けて発信していただきたいなということを思っておりますし、もっと言いたいことがいっぱいあるんですが、プラットフォームがすごく大事ということがありますので、こんなプラットフォームを提供したらどうかというのはまたお話をさせていただく機会があったらうれしいなと。

【長野県知事 阿部守一】

紙に書いて出しといて。

【男性】

ありがとうございます。

【進行役 倉根明德】

倉根氏 ありがとうございました。

他に手を挙げた方がいますか。

【女性】

今日はありがとうございました。皆さんみたいに大人じゃないので、すごいしっかり

した意見とかはあまりないんですけど、今、学校で地元のこととか観光のこととか学んで、すごい楽しいですよ。その金曜日の授業がとっても楽しみで、毎日、金曜日が来るとルンルンしているんですけど。

今日、話が出た中で、実現方法のところで自然を壊さないでほしいという意見を出したんですけど、それで白馬とか茅野とかを見ていると、住んでいない古いお家がたくさんあるんですね。だから、今、意見が出た中で、プラットフォームとかいろいろな人と関われる場所を新しくこの長野市とかに大々的につくるんじゃなくて、白馬とか茅野とかそういったところの、全然使っていないものをリフォームしたり建て直したりして、新しい交流の場にまたしてもらえらるともっと人がたくさん来たり、お金が入ってきたりすると思うのと、あと、自分すごい山菜が大好きなんです、わらびとか。そういったものが、うちの祖父が山へ行ってとってきてくれて今年もわらびを送るねと、言ってくれてるんですけど、市場で出回っているわらびとか山菜とかすごい高いんですよ。ひよろひよろのわらびがめっちゃ高いんですよ。そういうのをもっと、山菜おいしいよというのを伝えてほしいなと思って、今、手を挙げさせてもらいました。ありがとうございました。

【進行役 倉根明德】

楽しさが何かすごい伝わってきますね。あと二人、どなたですか。

【女性】

すみません、今日、何か困っていることがあったらぶつけてみてくださいということだったので、どうしてもこれだけは知事に伝えたいことがあって来ました。

私、去年出産して、今、育児をしているんですけども。私と主人と両方とも育休をとろうとしたんですが、主人の会社の理解がなくて取れなかったんです。

市町村役場に妊娠しましたという届出を出しに行ったときに、何かお困りのことはありませんかというふうに聞いてくださったので、私の主人の会社の理解がなくて育休が取れなかったんですというふうにご相談したら、「私の周りも男性で育休とっている人いないし、難しいですよ」と言われたんですよ。

やはりまだまだ、男性でも女性でも働けるように、活躍できるようになろうという意識が行政自体にもないのかな。何かやろうという、計画には入っているんですね。ただ、一人ひとりの意識が全然変わっていないというところがあって、やっぱりそこを変えていっていただきたい。私、このままじゃ2人目は産めません。仕事を続けたいので、男

性でも育休がとれるようになっていただかないと。なので、よろしくお願いします。

ぜひ行政職員さんから取っていただいて、民間企業にも勧めていただきたいので、ぜひよろしくお願いします。

【進行役 倉根明德】

ありがとうございました。

【長野県知事 阿部守一】

ちなみに、県はイクボス・温かボス宣言というのをみんなで広げようとやっているんですよ。県、私も部下職員にはこうやって配慮しますとか、どんな制度があるかというのを一応勉強させてもらってやっているの、それ民間企業にも広げようとやっているんですけど、まだ広がってないんですね。そこはちゃんとやっていくようにしたいと思います。

【進行役 倉根明德】

では、最後。

【女性】

大阪出身なんですけど、寮生なんです。学校でやっていて、白馬のことは結構学べるんですけど、長野のことは全然学べなくて、ここにも書いているように、長野県を科目に入れてほしいなというのがあるので。

あとは、白馬の山があるんですけど、写真を撮ろうとしても絶対、電柱とか電線とかが入って、うまく撮れないと思ってしまうんですよ。だから地中に埋めてほしいなというのはあるんですけど、どうですか。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。いやこれ、昨日、私も白馬へ行って新しい学校をつくるシンポジウムを聞いてたんですけど、そのときいろいろな人と打ち合わせしたときに、やっぱり電柱の話も出ていますし、あと、さっきも出たんですが、長野のことを学ぼうというのは、私、選挙の公約に「信州学」やろうとって、今、一応、教育委員会では信州学の教科書をつくってやるようになっているんだけど、あなたの高校はやっていないの。

【引率教諭】

やっています。1年生が白馬、2年生が長野・日本、3年生がグローバルです。

【長野県知事 阿部守一】

そうらしいから、これから期待していてね。

【女性】

ありがとうございます。

【長野県知事 阿部守一】

では皆さんからひと通りお話をしてもらったので、少し、私が皆さんと対話をしながら深めていきたいなと思います。

まずAグループ、さっきの教育だとか、一つの柱は教育と、それからそれに関連した、信州はハブにいろいろな人がいると、人のハブをつくるということですよね、ハブって。

幾つか私なりの柱立てをしていて、その大きな柱の一つに学びを尊重する県にしたいなというふうに実は思っています。で、まあ、学びっていう概念もいろいろあると私、思っているんですけども。昨日もその白馬高校の教育のシンポジウム、私もちょっと前半だけ聞いてきて、その前にお昼ご飯を食べながら、創立しようとしている人たちとか、また白馬高校のみんなは岡田武史さんのお話を聞いて、岡田さんとかとお話してきたんですけども、やっぱり私のこれからの地域を支えていく大きな柱は教育だと思っています。あえてもう一つ、行政の縦割りの観点でいうと医療かなど。教育と医療がしっかりしているところに多分、人は集まるんじゃないかというふうに思っています。

いろいろなところで企業誘致の話とかをさせてもらっても、ひと昔前は立地条件、土地がどうなっているか、高速交通体系はどうなっているかということが重要だったと思うんですけども、最近はあまりそういう話じゃなくて、安心して医療を受けられるか、優秀な人材を確保できるような教育基盤があるのか、従業員の子どもたちの教育は大丈夫かと、そういう話になってきているので、これはもう、長野県に限らず、どこでもそういう方向だろうというふうに思います。そういう意味で、ぜひこの学びというものをしっかり考えていかなければいけないと思っています。ちょっとすぐに対応したいと思っています。

私、やっぱり、今までの長野県の、日本の教育はある意味、世界の中でも成功モデルの一つだと思っています。だって山の中まで行っても立派な学校があって、一応、文部

科学省が決めた学習指導要領どおりの教育は日本全国津々浦々受けられていると。ちょっと若干、外国人の方たちに対する教育はいろいろ課題はあると思いますけれども、少なくとも日本国籍を持っている人たちに対する教育は、世界に誇れる教育を私は行ってきたんじゃないかというふうに思っています。

ただ、それがこれから未来に向けてもそのままでもいいかというところと全く私はいけないんじゃないかというふうに思っています。人間は成功体験が強い者ほど、なかなか舵を切りきれないというところがあるので、教育改革の話がずっと叫ばれ続けている割には、あまり変わっていないんじゃないかというのが私の正直な感覚ですので、私はやっぱり、長野県から教育改革をしっかりやっていきたいなというふうに思っている中で、もう少し、どういうことを変えていけばいいのか、何をすればいいのか聞かせて。

先ほどお話あったように、行政だけで変えていけない部分もあるという点で、今、白馬だとか、軽井沢だとか、佐久穂だとか、いろいろ県内に学校をつくる動きも出てきて、これは非常にいいことだなというふうに思っているんですけども、そういう中で、これからの5か年計画なり、将来の長野県を見通したときに、教育、何を換えればいいのか皆さん思っていますか、私なりにもいろいろ考えてはいるんですけど、何か教育について提言があれば。

【男性】

ちょっとあまり深い考えはないんですけど、教員の給料を上げるということ。シンプルな答えで。

【長野県知事 阿部守一】

みんなどんどん言ってくれる。

【男性】

私自身も長野の高校だったんですけども、その得意科目、不得意科目で差があると思って、単位互換性みたいな形で、英語についてはここで学べるけれども数学についてはここで学べるみたいな。移動コストがかかると思うので、デジタルを入れてできないかなと。大学だったら一ツ橋大の授業を東工大生が受けられたりとか、東工大の授業を東京外大の人が受けられたりとかという形で、要するに学力とかに応じて自分の授業が受けられるとか、あるいは特色のある学校ってあるじゃないですか、例えば園芸高校とか、あるいは商業高校とかで、そういうところの科目に興味がある人っていると思うん

ですけど、普通科の高校の子でもそういうところの科目を受けられるみたいなことができるんじゃないかなというのが1点と、あともう一つが、教育ってやっぱり生涯にわたってやるべきだなと思っていて、それこそ20年後とかになると、先ほどもA Iの話なんかもありましたけれども、多分、いろいろな陳腐化するものが出てきて、それを何かずっと生涯を通じて学べるようなプラットフォームみたいなものがあったりするといいんじゃないかなと思いました。

【長野県知事 阿部守一】

ちょっと今日は皆さんの知恵を借りたい場だから、どんどん言ってもらうとありがたいんですが。

【男性】

よろしいですか、僕は本物に触れ合う教育をやってほしいなと思います。特に実地で触れ合う研修、例えば畜産とかで、ちゃんと牛の乳搾りをしたりとか、除ふんをしたりとか、そういうような体験ができるような教育をぜひやっていただきたいなと、進めていただきたいなと思います。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。あとは。

【女性】

多分、私が高校生だった頃よりも、さらにアクティブラーニングというものをやっているのかなという気はするんですけども。私、大学で教えたりすることもあるんですが、皆さんなかなかやっぱり意見が言えない。自分の意見が言えない子が多くて、もっともっとアクティブラーニング、自分で考えて勉強するというのをやっていっていただきたいなというふうに思っています。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。あと一人。

【男性】

今、教採（教員採用）で感じたんですけど、教員の養成だったりだとか、教員を採用

するとき、多分何か特別な選考枠というか、何かしら専門知識に特化した教員採用枠というのを考えていただけたら、多分、その実際にとった後も、例えば特別支援教育だったりだとか、あと東京都だったら理科だったり英語だったりという、その特別な教科に力を入れた教師の育成というのをやっていると思うので、そういう意味では専門知識を持った人を教員として使うというか、育てるという環境を整えればいいんじゃないかなと思いました。

【長野県知事 阿部守一】

僕はさっきの単位互換性みたいな話だとか、生涯学び続けるというのは極めて重要な話だと思っています。私、どこかのグループでも多様性という話を言っていましたけど、教育もやはり、何というか、単線ルートじゃなくて、もっといろいろな複線化をしていったほうがいいと思っています、私は。かつ、何というか、国語・算数・理科・社会ができる人が何か勉強ができる子みたいな社会と思うんで、何か畑で農作物をつくるのが得意な子がすごく評価されたり、伝統工芸をつくるのに精通した子どもたちをつくるために、そういう人たちが学校へ行ってぼんぼん教えるとか、何というか、私が考えるのは、学習指導要領で国民全体が同じ教育を受ける仕組みがこれからも本当に維持されるのがいいのかどうかというのは、本当はもっとちゃんと考える時代に来ているんじゃないかなというふうに思っています。

さっきも長野県のことを知らないよねという話がありました。信州学って一応入れているけれども、本当は何かもっと深いところから長野県のことを学ぶことができれば、もっと違う教育ができると思いますし、いろいろなグループから出ているグローバルな話、グローバル社会になればなるほど、やっぱりどこに自分の根っこがあるのかと。アメリカへ行ったりフランスへ行ったりしたときに、お前、信州出身って言うけど何なんだと、信州とは一体どういうところなんだと聞かれて何も答えられないと、お前、何を勉強しているんだということで相手にされないんじゃないかなというふうに思っています。

そういう意味では、この学びのあり方というのはぜひ多様化をしていきたいと思えますし、例えば北相木村では、花まる学習会と組んで教育をやっていますけれども、ああいう民間とのコラボレーションであったり、あるいは長野県は、さっき脱長野市という話もありましたけども、どっちかという、村とか町のほうがある意味国際化が進んでいるところがあるので、そういうところから何か教育をもっと変えていく。で、さっきのITとかを使って、今、何というか、幾らでも、物理的な距離の差というのは埋めよ

うと思えば埋められますし、特に教育も別に東京で学ばなくても、むしろこういう自然環境の豊かなところで学んだほうが感性も磨かれるし、あるいは国語・算数・理科・社会以外の、例えばスポーツだったり、あるいは社会貢献活動だったり、そういうのをする環境は長野県のほうが確実に恵まれているんだろうなというふうに思っているので、そういうものをもっと生かした教育のあり方というものをぜひ考えていきたいなというふうに思っています。ちょっと私の考えを言う場でないので、これぐらいにしておきますけれども。

それから、信州をハブにして故郷が2つも3つもあるような社会がいいよねと、私もいいなと思います。私も東京生まれで、何というか、東京の良さも悪さもわかっているし、今、長野県でこうやって県民の皆さんの代表で仕事させていただいている中で、やっぱり長野県のいいところがいっぱいあるし、私は長野県のことには東京に負けないすばらしいところだと確信していますけれども、それでもやっぱり嫌なところもあるよなというふうに思うので。

やっぱりいろいろな、複数の地域に拠点を持つ人たちが長野県を愛して、ここを拠点にして全国で、あるいはグローバルに活躍できる社会像というのは私は非常にすばらしいなと思うので、何かちょっとその具体化についてはぜひ一緒に考えてもらえるとありがたいなと思います。

ちょっと、Aグループだけやっていると終わってしまうので、Aグループの話はこれぐらいにさせていただきます。

Bグループは、多様な人材が活躍できる心豊かに暮らせる魅力ある県にしましょうということで、キーワードは違いを認めるということなんだよね、多様性の受け入れ、私は、信州創生戦略をつくる中で、人生を楽しむことができる働き方・暮らし方の創造というのを入れて、例えばデュアルワーク、一人多役ってうちの県では言っていますけれども。冬は例えばスキー場、夏は農業とかね。何かそういう働き方もいいし、あと人生二毛作社会の実現といって、長野県、やっぱり高齢者の就業率が一番高い県でもあるので、年をとっても働き続けられるような環境をつくっていききたいなと思っています。

その中でこれからの社会を考えたときには、まず雇用の面から言うと、さっき育休の話で「とんでもない」という厳しいご意見をいただいていますし、私も長野県全体を見ていて、女性の活躍、やっぱりまだまだ遅れているのかなと正直思っています。県の職員も、もっと部長とかを増やしていかなければいけないと思っていますし、地域社会に出て行くと私が対話する相手の人たちはほとんど男性なんで、これはちょっと環境づくり

をもっと我々も考えなければいけないと思いますけど、今日なんか女性いっぱいいて、皆さんがもっと発言してほしいなと。地域社会とか、それぞれの職場で発言するのって難しいのかな。

女性が活躍できる社会をつくりましょうというのは国も言っているし、建前かもしれないけれども、どこの市町村だってみんな言っているよね。県だって言っているわけですし、それが実現しないのというのはどこなんですかね。

【女性】

固定観念。女性が出しゃばるなみたいな。

【長野県知事 阿部守一】

それ、何というか、男性側の問題もあるけど、女性側も何か甘んじていない部分もあるんじゃない。

【女性】

両方あると思うんです。一つにやっぱりロールモデルが少ないかなというのはあるんで、私がやっぱり育っていく中で、すごい活躍されている女性というのを目の当たりにはしていなかったのか、高校終わってちょっと海外に出ていたのか、その後女性もこんなにいろいろな仕事ができるんだということがわかって、ちょっと、意見を言い過ぎちゃうほうなんでよくないかなと思うんですけど。

【長野県知事 阿部守一】

意見を言い過ぎるくらいじゃないと、やっぱり日本、変わっていかないよね。

【女性】

やっぱりロールモデルは必要かなというふうには思っています。

【長野県知事 阿部守一】

まあ、今、中島さんが副知事、女性でやってもらっているし、教育委員長だったり公安委員長だったり、私がポリティカルアポインティ（任用）できるところは相当女性に活躍してもらおうようにしてはきているんですけども、まあ、私が直接コントロールできないところとか、いきなり係長の女性を部長にするわけにもいかないんで、なかなかそ

こは時間がかかっているなど、正直、思っていますけど。

あと、やっぱりもっと地域社会が、発想が変わってないですよ。どうすればいいと思いますか。

【女性】

教育とかでもう少し広い視点を持つしかない、そこに返ってきてしまうのかもしれないんですけど。

【長野県知事 阿部守一】

あれ、学校とかではどうなの。長野県の学校、私、行っていないので、長野県の学校は男女平等？

【男性】

女性のほうが強いぐらいじゃないですか。

【男性】

学校では多分、女性のほうが生徒会長、児童会長、出る場合が多いんですが、地域住民ではやっぱり男性の話を聞け、になっちゃうんです。

【長野県知事 阿部守一】

それ、何でそうなの。

【男性】

地域は、前のキャリアが引っ張るんですよ。今まで部長だった人が偉そうにする。今まで課長だった人がその次、それです。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど、その意識改革はどうすればいいのかな。ちょっとそれ、問題はまず問題として考えておかなければいけないので、ちょっとまたいいアイデアがあったら教えてください。

あと女性以外の多様性、多様性を受け入れるといったときに、障がいがある人とか外国人とか、そういう人たちにももっと活躍できる社会にしていかなければいけないだろ

うと思っているんですけども。

何かその多様性を受け入れる社会にするためにこれがポイントだ、みたいなことはありますか。これ何か、別にBグループだけじゃなくて、皆さん誰でもいいけど。

【男性】

多様性ということがたくさん出てきているんですけど、多様性って要するに他者を認め合うことだと僕は思っていて、それって何から始まるかといったら、多分、僕、子どもの時代から始まるかなと思うんですね。というのは、今、おじいさん、おばあさんと一緒に暮らしていない子って結構いて、僕、おじいさん、おばあさんとぎりぎり一緒に暮らしてた世代なんですけど、おじいさん、おばあさんと一緒に暮らしていると、人間って弱っていくんや、死んでいくんだみたいなことをリアルに見てたので、今、僕の父がアルツハイマー型認知症になっているんですけど、それは見ていたので、認知症ってこんなもんなんやなということで、僕は認知症に対してはよくわかってるんですけど、知らない人が目の前に来たら何だかわからないじゃないですか、怖いじゃないですか。

障がい者の方とかも多分そうだと思うんですけど、ちっちゃいときからそれが当たり前、家庭に例えば障がい者の方がいるという人にとっては、多分、それが当たり前前の社会になると思うので、できれば子ども時代、幼稚園かもしれないですし小学校かもしれないんですけど、その頃からやっぱり世の中にはこういう人がいるんだよ、普通に、これが普通だよみたいなことを子どもレベルのときからやっていけば、多分、大人になっても、それが普通なんだというレベルまでになれればいいかなと思います。

【長野県知事 阿部守一】

いいですね。私も、今、障がい者の方とかと普通に接していますけど、私、障がい者の人たちと接する機会って公務員になるまで正直あまりなかったもので、最初、神奈川県庁で福祉政策課長ってなったときに、いろいろな障がいを持った方たちがいる中で結構とまどったこともあるし、どう対応すればいいんだというように感じたことも正直あるんですけども、何か構え過ぎていたなというふうに正直、今では思っています。

おっしゃるように、子どもの時代からやっぱりお年寄りだったり、障がいがある人だったり、外国人だったり、いろいろな人と接する機会をつくるというのは大事だし、やっぱりこれどうしても教育に戻っていつてしまうんですね。

で、さっきのメンター（相談者・助言者）という話もありましたし、大学の学長の人たちと意見交換したときに、大学の先生が他の学校でもっと教えられるようにできない

かという話が大学の人たちからも出ています。それはやっぱり若い、小さい頃から学問に興味を持ってもらうということもありますし、大学でこんなことを研究している人たちがいるんだと。それに100分の1でも1,000分の1でも関心を持ってくれる人が出れば、それはそれですごいことだし、逆にやっぱり、子どもたちにとっても、何かあんな研究、こんな研究って、非常に視野が広がることによって自分たちの進むべきこと、何か狭い選択肢から選びましょうみたいな話ではなくなるんじゃないかと思って私はいいことだなと思っています。その大学とか高等教育の人たちが初等中等教育に入り込んでいったり、メンターをつくったり、あるいはいろいろな人と交わるような場を学校教育の場でつくったりするということは大変いいことだなと、私も思います。

岡田監督と昨日話したら、岡田監督、今、今治で考えているのは、特別養護老人ホームの空いている部屋に若いやつらを合宿させようとか住ませようとかということを考えているみたいで、そういう意味ではやっぱり多世代交流、今、こども食堂ってやってますが、僕はこども食堂だけで本当にいいのかなと思っていて、むしろ多世代食堂で、お年寄りも来るし子どもも来るみたいにしていったほうがいいのかというふうには思っています。ちょっと多様性からいろいろ言っちゃいましたけど。

それから、次のCグループの人たちの話を聞いていて、私は、関心のある人とない人がいるよねという話とか、グローバル化の話とかある中で僕は同じような視点で2つポイントがあるなと思って聞いていたんですけども。やっぱり長野県って、県民の見ている長野県と、長野県外から見ている長野県の姿が違ってんじゃないかということが一つと、それから同じ長野県民でも、南信の人と北信の人が見ている姿が全然違うよねと。北信の人たちはスキー場に外国人いっぱい来ているけど、南信はほとんど外国人来ませんという話がありましたけど、これは結構、政策を考えていく上では実は重要な視点じゃないかなというふうに思っています。

Dグループの脱長野市という話とも関連するのかもしれないんですけども、やっぱりどうしても県庁の視点はちょっと時々偏るかなというふうに自分でも思っていて、やっぱりどうしても長野市目線の発想になると、例えば長野県、新幹線があるから便利だよと。お前、それ木曾とか飯田へ行ってみろという話になるので、その視点はしっかり持っていかなければ長野県の多様な地域の皆さんの期待には応えられないなと思っていますので、県内外の受けとめの差とか、県内の地域の差というのは、これはしっかり考えなければいけないと思っています。

その前提で、では具体的にどういう観点があればそういうことに対応できると思いますか。何というか県内外、県民が見ている長野県像と、移住したい県ナンバーワンだと

か健康長寿日本一ですとかという、よそから思ってもらえている長野県というのは結構ギャップがあるんですね。観光地もいっぱいあるし、何か長野県っていいところだよねと県外の人からは言われるけれども、県民からは、うちの村なんか何も無いところじゃないかというふうに言われることもあって、それ大きなギャップがあるなと思っていますんですけども。これってどう変えていくのか、あるいは変えていくんじゃなくて、どう生かしていくのかという視点で考えたときに何かありますか。

【進行役 倉根明德】

難しいですね。高校生とかはどうです。長野県、私もそうでしたね。やっぱり一回県外に出ないと良さってわからない。ずっと住んでいると、何も無いところだなと思ってみんな出て行ってしまおうと思うんですけど、居ながらにしていいところだなと思うには・・・

【長野県知事 阿部守一】

あれ本当にいいところだと思ってないのかな、ずっと長野県で生まれ育っている人。

【女性】

私は飯田市から来たんですけど、飯田市は市田柿であったりとか、私の地元は天竜峡なんですけど、天竜峡は秘境とかと言われて少し有名だったりするんですけど、やっぱり地元から見ると山とかしかなないじゃんみたいな、そんな意識なので。まずは地元に住んでいる若い世代がその地域が大切にしているものを知る機会が大切かなと思います。

天竜峡で有名なのが今田人形なんですけど、今田人形を学びに外国の方がいらっしゃるんですけど、それを知っていながらもそんなに地元の中学生、小学生は興味がある人が少ないので、まず体験してもらって、その地域が大切にしているものを知って、それで知るだけじゃなくて発信していく、体験しただけじゃなくて、それを発信するということが大切かなと思います。

【長野県知事 阿部守一】

そうですね、あれ体験する機会というのはないの。

【女性】

中学生、小学生は、今田人形を例にするとあります。小学生は高学年からクラブ活動

が始まるんですけど、そのクラブ活動として今田人形を学ぶ機会があって、中学生は総合の授業として今田人形に触れる機会だったり、天竜峡の観光地に触れる機会があるんですけど、授業でやるので、みんなが体験しに行くんですけどあまり興味がないというか、地元、天竜峡の観光に興味がない人はもう嫌々みたいな感じになってしまうので、本当に知りたいという人からまず始めて、好きな人、地元を好きになれるという環境をどんどん広げていけたらと。

【長野県知事 阿部守一】

そうですね、やっぱり地元を好きになるようにするというのが一番ですよ、多分。だけど、嫌なこともいっぱいあるわけですよ。それどこに住んだって嫌なことや変えたいなということもあるので、それ何かさっきどこかのグループでも出ていたけど、それは県が悪いとか市町村が悪いとか、何かうちの自治会が悪いとか、そんなことばかり言っているから変わらないんだと私は思っていて、「自分が変える」というのがやっぱり基本なんじゃないのというふうに私は思っています。

それ、やっぱり一人ひとりが自分の地域をよくするためにやれることって、私は無限大にあると思うんですよ。一人で暮らしているおじいちゃんのところへ行って、ときどき何か声かけするだけでも地域は良くなると私は思いますし、やっぱり主体的に動く、人のせいにはしない。今日のこの会では人の意見は否定しないという形でやっていますが、現実の社会へ行くとお前はまだ何もわかっていないとか、そんなこと言ったって金がないんだからできないだろうということでガンガン否定されるし、日本の教育も、どっちかという、何か答えありきでやっているの、先生が持っている答えにたどりつかないと、お前、何でこんなのがわからないのかと言われてしまうのが、やっぱりおかしいのかなと。世の中で答えがないことのほうがいっぱいあると私は思っているの、むしろ答えがない課題を自分たちで設定して、それに対してどうアプローチするかという教育をしていかなければいけないし、それは、私は子どもたちだけの問題ではなくて、実は私たち大人もそういう学びをしていかなければいけないんじゃないかなというふうに、今のお話を聞いていて思いました。

あとDグループ、オール信州脱長野市、みんなが当事者意識を持つ必要というのは全く私もそう思いますし、この、何というか長野市だけを何か悪者にしていてもだめなんだろうなと私は思っていて、何となく皆さんの言いたいことはわからなくはないんだけど、これってどういうことをしていけばいいということなんですか、具体的には。

【男性】

僕はちょっと提案というか、価値観、意識の変換ということでは言わせていただいたんですけども。基本的にやっぱり北に県庁があることによって、やっぱり南信とか松本の意見というのを聞けていないなというのは行政の方のお話を聞いていても感じるんですね。ああ、県がやっているという話になって、松本は松本でやっているからみたいな、その意識をまずは変えるところかなというふうに思っています。

せっかく健康長寿ナンバーワンなんですから、松本市も同じようなこともやっていると思うので一緒にやっていきましょう。逆にもう松本市さんすばらしいですねということで、松本市がやっていること、政策を褒めたり、そういうような姿勢でやっていけばいいんじゃないかなというふうに個人的に思っているんですね。

【長野県知事 阿部守一】

全く私はそう思っているんだけど、何というか長野、何というか、地域間の何か変な感情あるよね。私は77の市町村、みんな全て平等だし、長野県って市町村が頑張っているところが多いなと思っているので、県はそういうのをもっと応援しようというので地域振興局をつくっているんですけども、何となくありますよね。それって、いい部分もあるんですよ。むしろ、あの市町村には絶対負けたくないということで頑張るところあるから、全部否定すべきものでもないような気がするんだけど、協調すべきところはもっと協調したほうがいいかなと。それってさっきの、何というか、地域の交流が少ないのかな。例えば学校をつないで、今、インターネットで幾らでもつながり合えたりするので、物理的に移動しなくても、高校同士でもっと交流したりとか、そういう場を増やせば、長野になんか負けたくないとか、松本になんか、みたいな発想からまず抜け出さないと、このグローバルな社会で、私は戦うべき相手はそんな隣の町じゃないだろうと思って、その発想をやっぱり変えるのが、さっきの地域の人たちの男女の固定的な役割分担みたいな意識と同時に重要な気がしますよね。むしろ戦うべき相手は、東京だったり世界だったりするのに、何でこんな狭いところであっちはこうだとやっているのかというところは、私はよくわからないんですけど、何でかね。

【男性】

僕は長野市民なんですけども、あまり外のすばらしさ、例えば今回は白馬村から来ていただいた高校生もいらっしゃると思うんですけども、高校生でもう海外の人と交流しているという、そういうようなところって長野市にあるかもしれないんですけども、そ

ういったところを知らなかったので、もっと知っていききたいなど。

【長野県知事 阿部守一】

そうね。白馬とか野沢温泉は隣の村と張り合おうという発想はあまりないような気がするんだけどね。そういう意味では何か、あえてそういうことを払拭する意味でのそういう多様性を受け入れたり、あるいは地域間の何か変なマイナスの競争心を払拭する意味でのグローバル化とか、他の地域との交流というのは実は大事なのもかもしれないなと思いますよね。

ありがとうございます。ちょっとまだ言い足りない人たちもいっぱいいるかもしれないんですけども、ちょっと今日のこの場はこれで閉じさせていただきます。

7 知事総括コメント

【長野県知事 阿部守一】

長野県、この総合計画の策定に限らず、私は県民の皆さんとの対話で県政を進めていきたいと思っていますし、それから、私があまり言い過ぎてはいけないんですけども、長野県をつくるのは県民の人たち一人ひとりなんですよね。私がつくるわけでも、何か県の行政がやるわけでもないとはっきり思っています。行政がどんなことをやったって県民がそっぽを向いていれば何も進まないですし、むしろ行政なんかはもう横に置いておいたって、自分たちが暮らしやすいまちづくりを勝手にやっちゃえば、それはそれで人が集まる場づくりというのは確実に私はできると思いますし、そういう意味では、我々も無責任にするつもりはないので、私も知事としてできることは全力でやっていきたいと思いますが、ぜひ、今日来ていただいた皆さんも、それぞれの職場とかそれぞれの地域で中心になって、どういう社会をつくるんだ、そのために自分たちは一体何やるんだということを考えていってもらえるとありがたいなと思います。

ありがとうございました。

8 閉会

【進行役 倉根明德】

では最後に皆さんで集合写真を撮って終わりたいと思いますので、前の方にお集まりください。

(終了)